

金融仲介機能のベンチマークについて

2021年9月

「金融仲介機能ベンチマーク」の公表について

- JAバンク(JA、都道府県信用農業協同組合連合会、農林中央金庫)は、農林水産業の発展に寄与し、地域のみなさまの暮らしをバックアップすることを目指しています。
- 2019年度から2021年度を取組期間とするJAバンク中期戦略では、「他業態と差別化した価値を提供しつつ、持続可能な収益構造を構築することで、農業・地域から一層必要とされる存在」をJAバンクの目指す姿として掲げ、①農業・地域の成長支援、②貸出の強化、③ライフプランサポートの実践、④組合員・利用者接点の再構築、⑤JA・県域一帯の変革実践に、JAバンクが一体となって取り組むこととしています。
- 今回、JAバンクの金融仲介機能の発揮状況として、これまでの幅広い取組みのなかから①取引先の経営改善や成長力の強化への取組み、②CS調査の結果の2点をベンチマークとして公表するとともに、今後も「金融仲介機能のベンチマーク」を活用し、お客さまのニーズや経営課題の解決につながる本業支援・融資支援などに積極的に取り組み、地域経済の活性化に努めてまいります。

(参考) 「金融仲介機能のベンチマーク」について

- 2016年9月、金融庁が金融機関における金融仲介機能の発揮状況を客観的に評価する指標として「金融仲介機能のベンチマーク(以下「ベンチマーク」という。)」を公表いたしました。これは、私どもJAバンク中期戦略で掲げているJAバンクの目指す姿そのものであり、「農業所得向上・地域活性化」の実現に向け、不断の取組みを継続してまいります。

・JAバンクでは、「金融仲介機能ベンチマーク」の公表に併せ、「地域密着型金融の取組み」についても公表を行っております。

・農業・地域社会に貢献する地域密着型金融の取組みとして、①農山漁村等地域の活性化のための融資をはじめとする支援、②担い手の経営のライフサイクルに応じた支援、③経営の将来性を見極める融資手法をはじめ、担い手に適した資金供給手法の提供、④農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献の4項目について、公表を行っております。

1.取引先の経営改善や成長力の強化

- JAバンクでは、農業者のみなさまのライフステージに応じた融資・出資を通じ、経営改善や成長力の強化にかかるサポートに積極的に取り組んでいます。

① ライフステージ別の長期資金残高（2021年3月末） 18,988億円

			新規就農	就農後	法人化・事業拡大	事業発展	承継再生	農業関連団体等
ライフステージ別の長期資金								
プロパー・制度資金	JA信連	新規就農関連資金	農業近代化資金		負債整理資金			
		72億円	1,926億円		906億円			
			アグリマイティー資金					
			2,393億円					
			農機ハウスローン					
		1,211億円						
	その他農業者向け資金							
		3,301億円						
	金庫	農業者向け資金						
		316億円						
日本公庫受託資金		青年等就農資金	農業経営基盤強化資金（スーパーL）					
		396億円	3,521億円					
その他農業関連資金								
その他農業関連資金								
2,715億円								
その他農業関連資金								
2,231億円								

※上記残高は、長期資金(災害資金除く)のみを集計しているため、ディスクロージャー誌等の残高数値と異なります。農林中央金庫の貸出金残高からは、信用事業を行う系統団体に対する日銀成長基盤強化支援資金等の制度資金の原資資金を除いております。

② アグリ社を通じた出資金額（2021年3月末累計投資額） 102億円

アグリ社ファンド	アグリシードファンド	担い手経営体応援ファンド	プロパーファンド	復興ファンド
	25億円	8億円	50億円	17億円

取引先の経営改善や成長力の強化への取組み事例

畜産会社への積極的な支援（農林中央金庫 福岡支店：宮崎県）	
1.取組概要	<ul style="list-style-type: none"> ・当社は、地域で高い飼養成績を誇る養豚生産法人です。 ・当社の取引金融機関は地場地銀であり、貸出・為替取引などの取引は行っていましたが、当社が抱える経営課題への十分な議論はされていませんでした。 ・農林中央金庫福岡支店は、2020年3月に当社との新規取引を開始しましたが、当社経営者がコロナ禍で事業先行きを不安視していたため、事業性評価の取組を提案し、取組を開始しました。 ・事業性評価を行うなかで、財務バランスの改善や、飼料供給元の偏り等の経営課題の洗出し、各課題へのソリューション提供に成功し、当社経営者から高い評価を受けることができました。
2.目的	<ul style="list-style-type: none"> ・農林中央金庫福岡支店は、2020年3月に当社と新規取引を開始しました。当社との取引関係が浅かったため、経営課題の正確な把握、および採算性を確保したうえでの融資シェア伸長に向けては、事業性評価の取組を通じた経営課題の洗出しや、同課題へのソリューション提案を行うことで、他行との差別化を図り、金利競争から脱却する必要性がありました。 ・また財務的な観点でも、当社の財務バランスは、短期借入に偏重していました。当社がコロナ禍で先行きを不安視するなか、長期目つ低利資金の供給による財務安定化が必要と考えられ、銀行政策を含めた財務バランスの改善に向けた議論を行う必要性がありました。
3.成果・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・事業性評価の取組を通じて、経営課題を可視化し、当社経営者と課題の優先順位付にかかる議論を実施しました。 ・優先課題と位置付けた財務バランス改善には、農林中央金庫の「新型コロナウイルス感染症対策復興資金」を応需することで、長期目つ低利資金を供給しました。また、飼料供給元の見直しによるコスト削減や、豚糞堆肥の有償販売などを通じ、生産者所得向上を図りました。 ・当社経営者から事業性評価提案を高く評価いただいた結果、採算性を確保しつつ、融資シェアを準メインにまで伸長させることができました。
4.今後の予定	<ul style="list-style-type: none"> ・金庫の掲げる「食農ビジネス」は、当社からもユニークな取組と好評を得ており、他行とは良い意味での差別化が図られております。 ・今後も、生産者所得向上に資する各種提案を通じて、地域の生産基盤を支えて参ります。

【「新型コロナウイルス感染症対策復興資金」の検討ステップ】



取引先の経営改善や成長力の強化への取組み事例

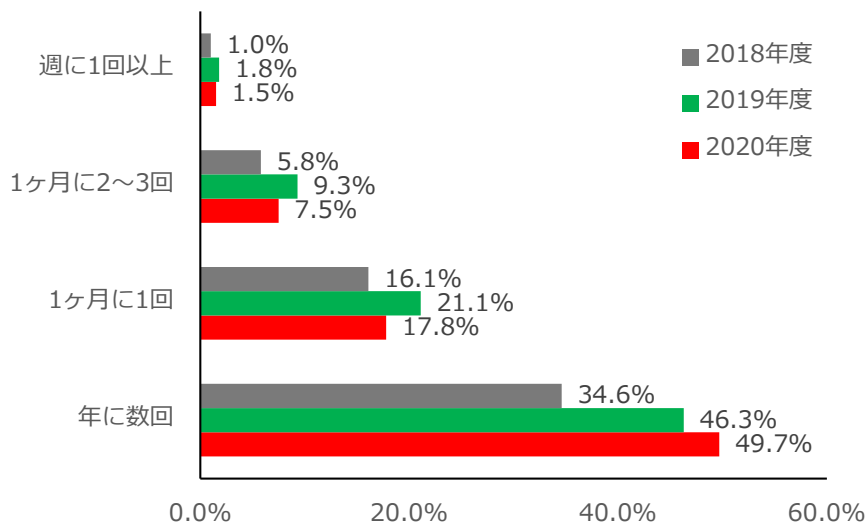
アグリシードファンドによる資本供与(J Aバンク鹿児島 : 鹿児島県)	
1.取組概要	<p>専門農協の組合員である養鶏業者（ブロイラー） A 社より、アグリシードファンドの相談を受け、対応を実施しました。</p> <p>農林中央金庫鹿児島営業所において、2016～2017年にかけて専門農協に対し、資本増強ニーズがある組合員に対するソリューションとして、アグリシードファンドを紹介しており、その後、J A鹿児島いずみに対して専門農協を通じて増資の相談がありました。</p> <p>鹿児島県信連では当時 J A鹿児島いずみからトレーニーを受け入れていたことから、トレーニーを中心に J A鹿児島いずみや農林中央金庫鹿児島営業所と連携し、計画策定支援を行いました。</p>
2.目的	<p>A 社については規模拡大にともなう鶏舎建設を予定していたことから、設備資金の調達手段の一環として、また同時に自己資本の増強を図る目的で、アグリシードファンドによる出資を実施しました。</p>
3.成果・効果	<p>2019年4月にアグリシードファンド9.9百万円の増資を行い、鶏舎建設にかかる資金を調達すると同時に、2019年4月期において債務超過を解消しました。</p>
4.今後の予定	<p>アグリシードファンドを契機として、A 社との取引拡大を図るとともに、専門農協との連携を強化し、組合員の資金ニーズへの対応強化を図る予定です。</p>

2. CS調査結果の公表

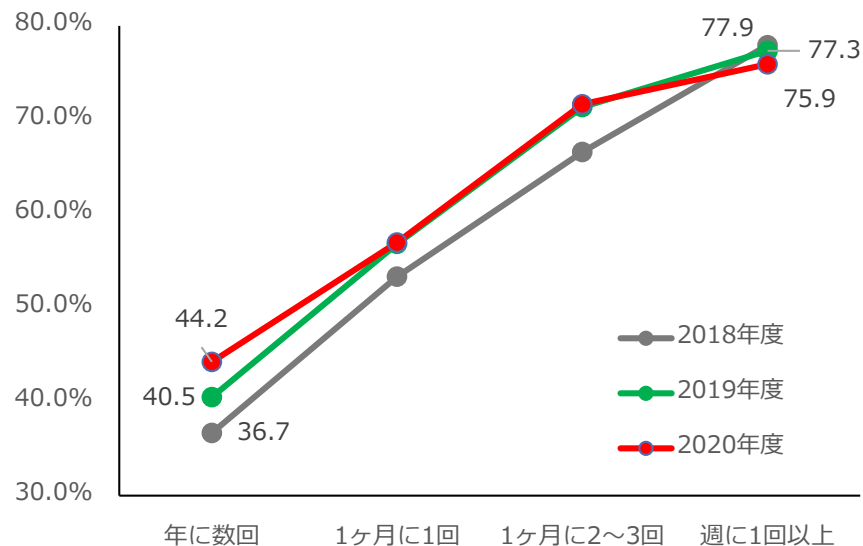
- JAバンクでは、「農業メインバンクCS調査」として、「メイン強化先(※)」を対象に満足度の計測を行っております。
- 得られた結果を活用しながら、農業者のみなさまの声に一層応えることができるよう、農業メインバンク機能の強化に取り組んでまいります。

(※)【メイン強化先】：将来的な地域農業の担い手として関係を再構築・強化すべき農業者のみなさまを、JA未取引先を含めて「メイン強化先」と位置付けております。各県域により、農業基盤や個別事情等を勘案のうえ、選定基準を定めております。

1. JAバンク担当者のメイン強化先訪問頻度



2. メイン強化先の訪問頻度別満足度



- メイン強化先への訪問を通じ、様々なニーズの捕捉、課題解決に向けたソリューション提供を行っております。
- 今後も、新型コロナウイルスに関する状況等に合わせた上でのアプローチの実施、メイン強化先への資金相談やニーズに沿った情報提供を行うなど、より満足いただけるサービスの提供を目指します。

C S 調査結果を踏まえた取組み事例

融資渉外・営農経済渉外の同行訪問活動（JAしおのや：栃木県）	
1.取組概要	<p>JAしおのやでは、2020年9月より、信用担当者（融資渉外）と営農経済担当者（営農経済渉外）の同行訪問を開始しました。</p> <p>本取組みでは、原則毎週火曜日、1日あたり5軒以上を訪問し、様々なニーズを引き出すことを目的としております。</p> <p>その訪問先での聴き取り内容をもとに、組合員の視点に立った提案を行います。</p>
2.目的	<p>農業者に近い存在である営農経済渉外と同行を行うことで組合員との信頼関係を築き、多様なニーズの掘り起こしや、課題に対して迅速に応える体制の構築を目指しています。</p> <p>また、信用担当部署と営農経済担当部署が連携を強めることで、組合員のJAバンク利用満足度向上・農業所得増大に向けて積極的に取り組むこととしています。</p>
3.成果・効果	<p>2020年10月～12月の3ヵ月間において、農業融資新規実行は64件、210百万円（前年同期対比+8件、+9百万円）で推移しました。</p> <p>コロナ禍ではありましたが、同行訪問によるニーズの掘り起こしにより、前年を上回る実績となりました。</p>
4.今後の予定	<p>今後も本取組みを継続し、組合員の皆さまに寄り添い、ニーズを聞き出すことで、持続可能な農業経営に貢献するとともに、多様なニーズや課題等にも対応していきます。</p>

【実際の同行訪問の様子】

